

講義コード	授業形態	講義	事前登録の有無	なし	担当教員	開講期
科目名	ミクロ経済学(週2回授業)					第1期
履修前提条件						備考
授業の目的	<p>ミクロ経済学は、消費者や企業といった経済を構成する主体がどのように行動するかという考察から出発して、そうした主体から構成される市場経済がどのように機能するか(あるいは機能しなくなるか)を解き明かす経済学の一分野である。ミクロ経済学は、マクロ経済学と並んで経済学の二大基礎理論を構成しており、そこで学んだ考え方は他のさまざまな応用科目で頻りに用いられる。</p> <p>この講義ではミクロ経済学の基礎理論を学ぶ。『ミクロ経済学基礎』では、需要曲線と供給曲線を中心にミクロ経済学の初歩を学んだ。この講義ではそれをやや理論的に掘り下げて、需要曲線は消費者行動からどのように導き出すことができるか、供給曲線はどのように企業行動から導き出すことができるかについて基礎的な考察を行う。そして、こうした道具立てを通して眺めると市場経済やそれにまつわる経済政策問題がどのように見えるかについて考えていく。</p>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市場経済の仕組みを説明できる。</li> <li>・市場経済にまつわる政策問題を理解できる。</li> <li>・ミクロ経済学の理論を用いて日常の経済問題を説明できる。</li> </ul>					
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>各回の授業で扱う項目について、教科書の該当箇所を読んでくること。授業の進行に応じて、教科書の確認問題や別途与える演習問題を解きながら復習すること。授業外に計120時間以上の学修を行うこと。</p>					
授業計画	<p>【第1回】ミクロ経済学とは何か  【第2回】需要と供給の均衡分析：需要と供給  【第3回】需要と供給の均衡分析：価格弾力性(その1)  【第4回】需要と供給の均衡分析：価格弾力性(その2)  【第5回】需要と供給の均衡分析：完全競争市場と市場均衡  【第6回】需要と供給の均衡分析：比較静学  【第7回】第2章練習問題の解説  【第8回】消費者行動：効用と無差別曲線  【第9回】消費者行動：限界代替率  【第10回】消費者行動：予算制約と効用最大化  【第11回】消費者行動：所得効果と代替効果(その1)  【第12回】消費者行動：所得効果と代替効果(その2)  【第13回】消費者行動：価格の変化の効果(その1)  【第14回】消費者行動：価格の変化の効果(その2)  【第15回】第3章練習問題の解説  【第16回】中間試験(予定)  【第17回】企業行動：生産関数  【第18回】企業行動：生産量と費用  【第19回】企業行動：いろいろな費用の性質  【第20回】企業行動：利潤最大化  【第21回】第4章練習問題の解説  【第22回】余剰分析：余剰分析の仕方  【第23回】余剰分析：市場均衡と余剰  【第24回】余剰分析：余剰分析の応用  【第25回】余剰分析：余剰分析と弾力性  【第26回】第5章練習問題の解説  【第27回】純粋交換経済での一般均衡分析：エッジワースのボックス・ダイアグラム  【第28回】純粋交換経済での一般均衡分析：純粋交換経済の市場均衡  【第29回】純粋交換経済での一般均衡分析：パレート効率性と市場の最適性  【第30回】第6章練習問題の解説</p>					
成績評価の方法	中間試験および前期末試験の結果による。					
フィードバックの内容						
教科書	『ミクロ経済学をつかむ』神戸伸輔ほか(有斐閣)2006年					
指定図書						
参考書						
教員からのお知らせ	『ミクロ経済学基礎』の単位を修得済みであることが望ましい。					
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。					
その他	この授業は週2回の授業である。 中間試験の日程は、授業内で告知する。 学籍番号によるクラス指定有。詳細は時間割およびガイダンス資料を確認すること。					